

国連宇宙空間平和利用委員会科学技術小委員会第36会期の結果について（報告）

平成11年3月10日
科学技術庁
外務省

1. 日時： 平成10年2月22日（月）～26日（金）

2. 場所： ウィーン国際センター（オーストリア）

3. 日本側出席者

外務省在ウィーン国際機関日本政府代表部	小井沼紀芳	参事官
	渡邊信裕	一等書記官
	森馬純一	専門調査員
軍備管理科学審議官組織	杉山浩二	国際科学協力室事務官
科学技術庁研究開発局	吉村善範	調査国際室長
航空宇宙技術研究所	戸田 勸	研究総務官
調査員	渡辺勝巳	（宇宙開発事業団）
調査員	加藤 明	（宇宙開発事業団）
調査員	石井康夫	（宇宙開発事業団）
調査員	木下圭晃	（宇宙開発事業団）
調査員	小野田勝美	（宇宙開発事業団）
東京大学／アジア工科大学院	村井俊治	教授

4. 参加国等

アルゼンチン、オーストラリア、オーストリア、ベルギー、ブラジル、ブルガリア、カナダ、チリ、中国、コロンビア、キューバ、チェコ、エクアドル、エジプト、フランス、ドイツ、ギリシア、ハンガリー、インド、インドネシア、イラン、イラク、イタリア、日本、ケニア、レバノン、メキシコ、モロッコ、オランダ、ナイジェリア、フィリピン、ポーランド、ポルトガル、韓国、ルーマニア、ロシア、南アフリカ、スペイン、スーダン、スウェーデン、シリア、トルコ、ウクライナ、イギリス、米国、ウルグアイ、ベネズエラ、ベトナム（48ヶ国）

（その他オブザーバーとして、アゼルバイジャン、ボリビア、コスタリカ、フィンランド、ペルー、スロバキア、チュニジア、アラブ連合、ITU、UNESCO、ESA、WMO、INTELSAT、AIAA、COSPAR、IAA、IAF、EURIZY、IAU、ISPRSが参加。）

5. 議事概要

今次会合は、国連全加盟国が参加する本年7月19～30日に宇宙空間平和利用委員会（COPUOS；別添1）の特別会期として開催される第3回国連宇宙会議（UNISPACE III；別添2）の会議構成、報告書案等とスペースデブリに関する技術報告書等を中心に審議が行われた。なお、これらの審議結果については、UNISPACE IIIに先だって開催されるCOPUOS本委員会（7月14～16日）において報告される予定である。

(1) UNISPACE III

①会議役員及び会議構成

会議役員については、我が国は村井東京大学教授をリモートセンシングを担当する委員会の議長として推薦し、各国との調整の結果、第2委員会の議長に内定した。また、その他の役員及び各委員会の議題配分については、別添3のとおり合意され、本委員会で承認を受けることとなった。

②報告書案

報告書案（目次別添4）については、その一部で、政治宣言にあたる「ウィーン宣言」をはじめ全文の検討が実施された。本報告書案はUNISPACE IIIの場で再度審議され、採択される予定である。

③テクニカルフォーラム

ワークショップに係る資料が配付された他、展示会のとりまとめを行うアメリカ航空宇宙学会（AIAA）より展示会準備に係る進捗状況の報告、展示関係者を対象とした現地説明会が行われた。

(2) スペースデブリ

スペースデブリの観測、モデリング・リスクアセスメント、低減対策について現状をとりまとめることを目的としたスペースデブリ技術報告書の審議を行い、本技術報告書は科技小委の報告書として採択された。この結果、1996年から続けられている一連の技術報告書作成作業を終了するが、今後も国際機関間デブリ調整会議等により最新の研究状況について報告を受け、科技小委における審議を継続することとなった。

(3) 宇宙応用計画

アビオドン宇宙応用課長より、客年の活動概要、UNISPACE 82以降の活動の総括及び各地域でのUNISPACE III準備会合の結果等について報告された。

(4) その他（明年の議題）

独より「西欧及びその他の地域グループ」を代表して議題の見直し案が提出されたが、最終的にコンセンサスを得ることができず、本年のCOPUOS本委員会で再審議を行うこととなった。

6. 所感

UNISPACE IIIについては、役員及び構成について合意され、またテクニカルフォーラムについても概要がほぼ明らかにされる等、その全貌が明らかになってきた。UNISPACE IIIは17年ぶりに開催される国連全加盟国が参加する大規模な宇宙関係の会議であり、我が国が推薦していた東京大学村井教授が第2委員会の議長に内定したことを踏まえ、我が国としても宇宙先進国にふさわしい対応を行う必要があると考える。具体的には、ハイレベルな代表団を派遣するとともに、展示会、ワークショップ等の開催を積極的に行う必要があると考える。

スペースデブリについては、法律小委員会での議論を開始すべきとの声が予想以上に大きく、今後の議論のあり方を巡り各国の意見が分かれた。今後の国際的な議論の進展に備えるため、我が国においてもデブリに関する一層の検討を進める必要がある。

国連宇宙空間平和利用委員会（COPUOS）について

1 名称

COPUOS (Committee on the Peaceful Uses of Outer Space)

2 経緯

1959年第14回国連総会決議「宇宙空間の平和利用に関する国際協力」に基づき、1961年に国連の常設委員会として設置された。

3 事務局

国連宇宙部（ウィーン）

4 参加国

現在61か国

5 目的

- (1) 宇宙空間の平和利用を目的とした宇宙開発等に関する情報交換及び国際協力を実施するための計画、実施方法についての検討
- (2) 国際協力を実施する際に生じる法律問題についての検討

6 機構

本委員会の下に、科学技術小委員会と法律小委員会があり、この2つの小委員会と本委員会がそれぞれ個別に年一回開催される。

(1) 科学技術小委員会

宇宙活動に係る諸問題について科学技術側面より検討を行うとともに、各国の宇宙活動に係る意見交換を実施している。また、宇宙応用計画等を通じ国際協力の推進にあたっている。

(2) 法律小委員会

宇宙活動により生じる法律問題について専門的に検討を行う。これまで宇宙条約等5つの条約・協定が制定され、リモートセンシング原則等の宇宙関連の原則や宣言が採択されている。

第3回国連宇宙会議（UNISPACE III）について

1. 名称

UNISPACE III (The Third United Nations Conference on Exploration and Peaceful Uses Outer Space) 「宇宙空間の探査及び平和利用に関する第3回国連会議」

2. 経緯

インドを中心とした途上国から1992年に提案があったもので、1996年、第51回国連総会で国連宇宙空間平和利用委員会（COPUOS）の特別会期として開催することが採択された。以降、COPUOS 科学技術小委員会及び本委員会を中心に議論を行ってきた。

3. 概要

- (1) 日時 平成11年7月19日(月)～30日(金)
- (2) 会場 オーストリア（ウィーン）
- (3) 招待者 国連全加盟国、国際機関、宇宙関連非政府機関、宇宙関連企業

4. テーマ及び主目的

(1) テーマ

21世紀の人類のための宇宙利益（Space Benefit for Humanity in the Twenty-first Century）

(2) 主目的

- ① 地域的及び地球的規模の重大な問題を効果的に解決する手段として、宇宙技術の使用を促進する。
- ② 経済、社会、文化の発展のため、加盟国、特に発展途上国の宇宙分野における研究成果を応用する能力を強化する。

5. 主な議題

- (1) 地球及びその環境に係る科学的知見の現状
- (2) 宇宙科学及び宇宙技術の現状と応用
- (3) 基礎宇宙科学及び教育の利益
- (4) 情報に対するニーズ及びグローバルアプローチ
- (5) 経済的、社会的な利益
- (6) 国際協力の推進

6. 全体構成

(1) 本会議

- ・全体会議
- ・第1委員会（科学分野担当）
- ・第2委員会（応用分野担当）

（村井教授（東京大学生産技術研究所、アジア工科大学院（タイ））が第2委員会の委員長に内定。）

(2) テクニカルフォーラム

- ・展示会（宇宙開発事業団（NASDA）及び宇宙科学研究所（ISAS））
- ・テクニカルプレゼンテーション
- ・ワークショップ（NASDA）
- ・企業プレゼンテーション
- ・宇宙世代フォーラム
- ・宇宙フェスティバル
- ・イブニングレクチャー（ISAS西田所長）

本会議における議題と役員

全 体 会 議	会議役員	議長	ラオ本委員会議長（印）	
		副議長	ゴンザレス本委員会副議長（チリ）	
		副議長兼ラポーター	ベレード本委員会ラポーター（モロッコ）	
	議題	番号		
		1	開会	
		2	会議役員選出	
		3	議題採択	
		4	委員会の設置	
		5	議長ステートメント	
		6	各国、各機関ステートメント	
		1 3	テクニカルフォーラムの結果報告	
		1 4	両委員会からの報告、報告書の採択	
		1 5	閉会	
第 一 委 員 会 — 科 学 分 野	会議役員	議長	レックス科技小委議長（独）	
		副議長	コプチェフロシア宇宙庁長官（露）	
		副議長兼ラポーター	名前不明（ナイジェリア）	
	議題	番号		
		7	地球科学	
		9	宇宙科学及び能力向上の利益（宇宙科学、教育・訓練）	
		1 0	情報ニーズとグローバルアプローチ（研究、応用、地理情報データの統合）	
		1 2	国際協力	
第 二 委 員 会 — 応 用 分 野	会議役員	議長	村井教授（日）	
		副議長	コパル法小委議長（チェコ）	
		副議長兼ラポーター	名前不明（ブラジル）	
	議題	番号		
		8	宇宙科学及び技術の応用（リモートセンシング、測位、通信）	
		1 1	経済的及び社会的利益（宇宙技術の2次利用、宇宙技術応用の効率性、商業利益、国際協力）	

（*）テクニカルフォーラム議長はヤンコビッチ（オーストリア）。

UNISPACE III 報告書目次案

I 背景

- A 歴史的経緯
- B 国連と宇宙空間の平和的利用
- C 第2回国連宇宙会議

II 宇宙の探査と利用を可能にした環境

- A 新国際機軸
- B 宇宙活動の重要且つ増大する役割

III 第3回国連宇宙会議

- A 会議の発端と準備活動
- B 目的と目標

IV 新千年期の開始と宇宙の潜在的可能性の活用

- A 環境保護
 - 1 地球に関する科学的知見と地球周辺の宇宙環境
 - 2 地球環境、自然資源とリモートセンシング
- B 宇宙通信の利用
- C 測位技術の利用
- D 更なる知見の獲得
- E 教育訓練
- F 情報の必要性
- G スピンオフ、商業化
- H 国際協力の促進
 - 1 国連システムにおける宇宙技術の使用
 - 2 国際宇宙法
 - 3 国際協力の現状と展望

V 宇宙千年期：宇宙開発と人類発展に関するウィーン宣言

- ・環境保護及び資源管理
- ・衛生、教育及び社会福祉のための宇宙通信の利用
- ・ナビゲーション及び測位の利用
- ・宇宙科学知識を拡大及び宇宙環境の保護
- ・教育と訓練機会の拡充及び宇宙活動の重要性の周知
- ・国連システムにおける宇宙活動の強化及び改編
- ・国際協力の促進